

平成21年度宮古入域観光客統計概況

宮古島市観光商工局観光課

1. 概要

平成21年度の宮古における入域観光客数は、337,356人（対前年比10.1%減）と前年より38,084人減少している。

沖縄県全体を見ても、昨年に引き続き、景気低迷の影響による旅行市場全体の冷え込みで、平成21年度の入域観光客数は前年を4.1%（24万4,300人）下回る5,690,000人で、前年実績を下回った。

2. 期間別動向

① 平成21年度上半期【入域観光客数 前年比△10.6%（20,815人減）】
八重干瀬まつり、全日本トライアスロン宮古島大会、ツールド宮古島等のスポーツイベントや、ロックフェスティバル等のミュージックイベントの開催による集客は前年度並みだが、国内外クルーズ船の寄港が無くなったことや、新型インフルエンザの影響が重なったことから、前年度実績を下回った。

② 平成21年度下半期【入域観光客数 前年比△8.9%（17,269人減）】
下半期も景気低迷による旅行手控え、高速道路料金の値下げによる安・近・短指向等、他の旅行先との競合が激しくなったことや、沖縄でインフルエンザの感染が拡大した影響等により、厳しい状況が続き、前年度実績を下回った。

3. 宿泊施設の稼働率

主要ホテルの宿泊稼働率 57.8%（前年比△9.3ポイント）

月別においては、7月の83.2%が最も高く、次いで8月の78.8%となっている。

逆に最も低いのは、11月の44.3%であり、次いで12月の47.1%である。

4. 宮古における観光関連消費額【17,489,210千円（△1,721,206千円）】

宮古島観光協会が平成16年度調査により推計した国内観光客1人当たりの平均消費額（51,842円）をもとに算出。

5. 今後の見通し

国内客については、引き続き景気低迷の影響を受けると見られることや、円高により海外旅行との競合が激しくなることにより、厳しい状況が続くものとみられる。

外国客については、クルーズ船の寄港が予定されていないため、国内客と同様に厳しい状況が予測される。

宮古圏域においては、今後、クルーズ船の寄港に向けての誘致活動、農協観光や台湾からのチャーター便の就航、体験滞在型観光の促進、体験学習をメニューとした修学旅行等、更には新たなイベントの企画を行い、入域観光客の増加に向けた誘客キャンペーンを官民挙げて実施したい。